

# きゅうしゅう

No.27

編集・発行 九州防衛局 総務部 福岡市博多区博多駅東2丁目10-7 福岡第2合同庁舎内 TEL092-488-8811

世界初の海上国際空港(長崎国際空港)

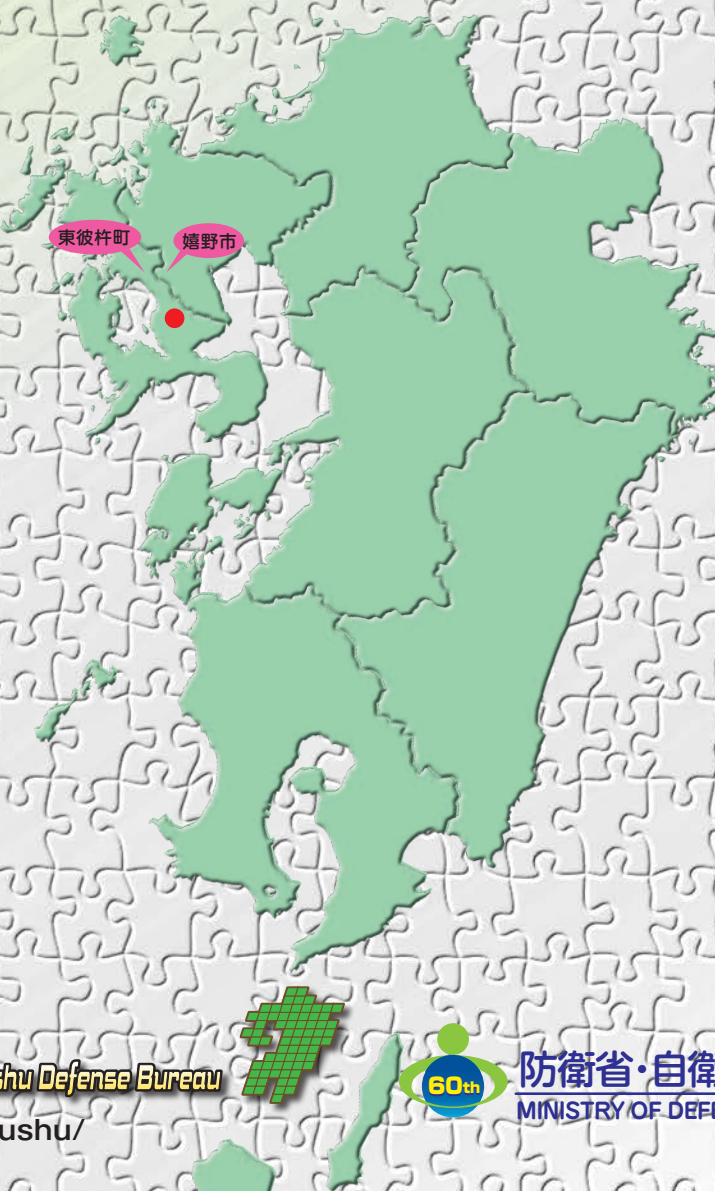


陸上自衛隊大村駐屯地

轟の滝  
(佐賀県嬉野市)



そのぎ茶園  
(長崎県東彼杵郡東彼杵町)



## 目次 CONTENTS

- 1 陸上自衛隊大村駐屯地紹介
- 2 自治体紹介～長崎県東彼杵郡東彼杵町、佐賀県嬉野市～
- 3 九州防衛局業務紹介
- 4 インフォメーション



九州防衛局 Kyushu Defense Bureau

<http://www.mod.go.jp/rdb/kyushu/>



防衛省・自衛隊  
MINISTRY OF DEFENSE

# 1 陸上自衛隊大村駐屯地紹介

## 駐屯地司令挨拶



第16普通科連隊長 兼 大村駐屯地司令  
1等陸佐 藤岡 史生（ふじおか ふみお）

九州防衛局広報誌「きゅうしゅう」をご覧の皆様こんにちは。陸上自衛隊第16普通科連隊長兼ねて大村駐屯地司令の藤岡です。今年の3月から大村で勤務を始めました。

大村駐屯地は今年で開設62周年を迎えました。その歴史は、昭和27年10月に旧陸軍歩兵第46連隊跡地に第10普通科連隊が針尾から移駐したことから始まります。その後、昭和29年8月に第16普通科連隊が編成完結し、昭和40年代に竹松駐屯地から第4施設大隊が大村に移駐して現在に至っています。

さて大村に所在する部隊はこれまで多くの厳しい任務に就いてきました。昭和32年の諫早大水害、昭和57年の長崎大水害、そして平成3年に発生した雲仙普賢岳の大火砕流の発生に伴う災害派遣などです。特に雲仙普賢岳における災害派遣は約4年6ヶ月の長期にわたる任務、これは自衛隊の災害派遣任務の最長記録です。最近では平成17年にイラクにおける人道復興支援活動、平成23年には東日本大震災に伴う災害派遣など活動の範囲も長崎県内にとどまりません。

大村駐屯地一同は、活気に満ち、規律厳正な駐屯地を目標としています。また、11月末には陸海空の部隊が大村駐屯地に集結して四部隊合同の記念行事を開催します。多くの方々が大村駐屯地へ来ていただき、そして繰り返し訪れたい駐屯地を目指していきます。皆様、大村駐屯地でお会いしましょう。

## 駐屯地紹介・沿革

～紹介～

大村駐屯地は昭和27年7月、連隊長平井重文 一正の指揮する第10普通科連隊の針尾からの移駐によって開設され、ここに大村駐屯地としての歴史の第一歩を印した。その後昭和29年7月自衛隊改編とともに第10連隊を母隊として第16普通科連隊が編成され、同連隊は大村に配置された。その後昭和49年3月、竹松駐屯地に第7高射特科群の創設に伴い、昭和38年から大村にいた第5陸曹教育隊が相浦へ移駐したのをはじめ、第4施設大隊が竹松から大村に移駐し、現在に至る。

現在、大村駐屯地には、第16普通科連隊、第4施設大隊、第1普通科直接支援中隊、施設整備隊、第363会計隊、第321基地通信中隊大村派遣隊、西部情報保全隊大村第一情報保全派遣隊、第134地区警務隊大村派遣隊、長崎地域援護センター、業務隊等の部隊が駐屯し勤務しています。

～沿革～

明治30年	6月	大村駐屯地開設 旧陸軍・歩兵第46聯隊（熊本より移駐）
昭和12年	9月	留守歩兵第46聯隊を母体に歩兵第55聯隊編成（菊部隊）
昭和14年	3月	歩兵第227聯隊編成
昭和16年	10月	歩兵第146聯隊編成（龍部隊）
昭和20年	8月	終戦
昭和21年	12月	長崎師範学校が移転（昭和26年師範学校は自然廃校）
昭和24年	5月	長崎大学学芸学部が設置
昭和27年	6月	長崎大学学芸学部は大村市立西大村中学校へ一時移転
昭和27年	7月	第10普通科連隊が針尾から移駐
昭和29年	7月	第16普通科連隊編成
同	8月	第16普通科連隊編成完結
同	8月	第10普通科連隊が北海道（滝川）へ移駐
昭和49年	3月	第5陸曹教育隊（昭和38年8月から大村）が相浦へ移駐
		第4施設大隊が竹松から移駐
平成15年	3月	第4後方支援連隊第1整備大隊施設整備隊及び
		第4後方支援連隊第2整備大隊第1普通科直接支援隊が編成
平成25年	3月	第4後方支援連隊第2整備大隊第1普通科直接支援中隊に改編

～災害派遣～

☆諫早大水害	昭和29年7月26日～8月18日（死者：539名）
☆長崎大水害	昭和57年7月23日～7月31日（死者：行方不明者：262名）
☆雲仙・普賢岳噴火災害（1658日：史上最長）	平成3年6月3日～平成7年12月16日（死者43名）
☆東日本大震災	平成23年3月12日～平成23年5月21日（死者15884名、行方不明者2633名 平成26年3月11日現在）

## 所在部隊紹介

### 第16普通科連隊

長崎県を隊区とする大村駐屯地の主力部隊であり師団銃剣道大会では、前人未踏の7連覇を達成した。災害派遣では雲仙普賢岳・東日本大震災に参加。雲仙派遣では、史上最長である1658日の期間を担当した部隊です。



本部庁舎



銃剣道



レンジャー教育



災害派遣

### 第4施設大隊

昭和49年竹松駐屯地から移駐した。現在は、第4師団の隷下部隊に対する施設作業を担当し、災害派遣では、250名の隊員が東日本大震災災害派遣に参加し、72日間におよぶ災害任務を無事に完遂した部隊です。



施設隊舎



漕舟競技会



施設訓練



災害派遣

### 第1普通科直接支援中隊

平成15年に新設され、大村駐屯地内の装備品の整備を支援を実施し、射撃検定では、43名中、13名が準特級を取得している精強な部隊です。



指揮所の搬入



災害派遣中の車輛整備

### 施設整備隊

平成15年に新設され、主に第4師団管内の施設器材の整備全般を支援し、大村駐屯地では、第4施設大隊の器材の整備を支援している部隊です。



訓練検閲



災害派遣中の車輛整備

### 大村駐屯地業務隊

業務隊全員が「奉仕」の心を持ち、業務隊長を核心とし、各科一致団結、様々な後方支援業務に従事。特に、緊急登庁訓練時には、厚生班が主体となり、家族支援（託児所等）を行っている部隊です。



総務科

郵政業務



管理科

野焼き支援



補給科

食育



厚生科

育児支援



衛生科

薬品支援

### 第363会計隊



入札



内線電話増設

### 第321基地通信中隊



車輛誘導

### 第134地区警務隊



就職支援教育



### 大村援護センター

# 陸・海・空四部隊合同自衛隊記念日行事の紹介

昭和31年から大村駐屯地創立記念日行事を実施し、昭和35年に市中行進(諫早市)を開始、昭和36年から大村市での市中行進となり、昭和45年から三部隊(陸上自衛隊大村駐屯地・竹松駐屯地・海上自衛隊第22航空群)による合同記念日行事を開始した。また、陸・海・空の統合運用の先駆けとして、福江島にある航空自衛隊第15警戒隊にも参加を呼びかけ、平成5年からは、全国でもめずらしい陸・海・空四部隊合同の自衛隊記念日行事を毎年開催しております。



平成26年  
11月29・30日  
駐屯地開放  
午前8時半～午後3時まで



## 市中行進

初日 市中行進  
2日目 記念日行事



沿道の観客は毎年2000人以上

中央観開式に匹敵する威風堂々の10列縦隊の行進



行進の大取を飾るのは74式戦車

### 音楽演奏



年間70回以上の音楽支援を実施

東日本大震災では全国初の慰問演奏した音楽部

### 史料館見学



築117年の史料館  
年間約2500人來隊

### 体験試乗



一番人気(軽装甲機動車)

### 模擬戦闘訓練



戦闘懸垂でビルの建物に侵入

### 子ども広場



子どもにも大人気

### 装備品展示



子どもたちも大満足

### 駐屯地記念行事



観閲官に栄誉礼

### 三部隊合同納涼盆踊り



観客7400名大盛況

### ちびっ子キャンプ大会



子どもによる火入れ式

### 駐屯地広報活動ふれあいコンサート



市民とふれあい大盛況

※ 前号広報誌「きゅうしゅう」6月号(26号)のP4霧島演習場の広さ 約10万㎡を約11百万㎡に訂正します。

## 2 自治体紹介



町PRキャラクター「茶子ちゃん」  
ポロシャツやTシャツにも印刷され幅広く  
親しまれています。

### ひがしそのぎ 長崎県東彼杵郡 東彼杵町

「小さくても誇りを  
持って輝くまち」

〒859-3808  
長崎県東彼杵郡東彼杵町蔵本郷1850番地6

ホームページアドレス：<http://www.sonogi.jp/>



東彼杵町長 渡邊 悟  
(わたなべ さとる)

### 町長あいさつ

東彼杵町は、長崎県のほぼ中央に位置し、お茶とみかんとクジラの町として、また人と産物と情報が集まる長崎県の玄関口として知られていますが、かつては長崎街道の宿場町として、また平戸街道の起点として、たくさんの商人や武士、ときには外国からの来訪者たちで賑わっていた町でもあります。江戸時代初めから明治にかけての数百年間は、捕鯨とクジラ肉の取引の中心地として栄え、ここに陸揚げされたクジラが九州各地へと送られていました。

大村湾を臨む温暖な気候と、虚空蔵岳から多良山系の山々は、美しい自然の景観と豊かな緑を育み、中でも千綿川上流の清流に沿って48の淵が連なる「龍頭泉」は、儒学者の広瀬淡窓が名づけた景勝地として、長崎県を代表する観光地のひとつです。

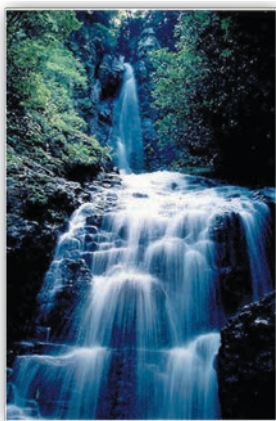
眼下に大村湾が広がる標高150～300mの台地に広大なそのぎ茶の茶園があります。総面積約400 ha。茶生産農家約400戸。年間約700t近い緑茶の生産量は長崎県内の約65%を占めています。生産された緑茶は、「そのぎ茶」として、伝統ある「手炒り釜炒り茶」の流れをくみ、勾玉のような丸っこい独特の形からは、深みのある「ふくよかな味と香り」がかもしだされ、銘茶として多くの人々から高い評価を受けています。

人口減少や少子高齢化が進むなか、町の人口も8,500人余りとなりましたが、東彼杵町にはさまざまな素晴らしい魅力があります。風光明媚な景色、地域内の人々の繋がり、魅力的な歴史・文化・伝統、豊かな農作物、交通の利便性などなど。暮らしやすく、町民の多くが『ずっとこのままでいい』と感じている町。これからもこの素晴らしい魅力資源を保持し続けることが本町の目指す将来像としています。

#### ■ 東彼杵町と陸上自衛隊大村駐屯地との関わり

東彼杵町には、5.4km<sup>2</sup>の面積を有する、陸上自衛隊大野原演習場があります。一部は佐賀県嬉野市に所在し、町の南東部に位置する標高400～590mの丘陵地帯です。周辺の6集落(1集落は嬉野市)で構成する基地協力が演習場周辺の整備に機能しています。

本演習場の自衛隊の使用状況は、年間演習日数が約300日余りで、中では120mm・81mm迫撃砲縮射弾の射撃訓練や爆破訓練も行われており、延べ自衛隊員7万人が結集し年間を通じ使用されています。今後とも町民との良好な関係を保ち、よりよい町づくりを推進してまいります。

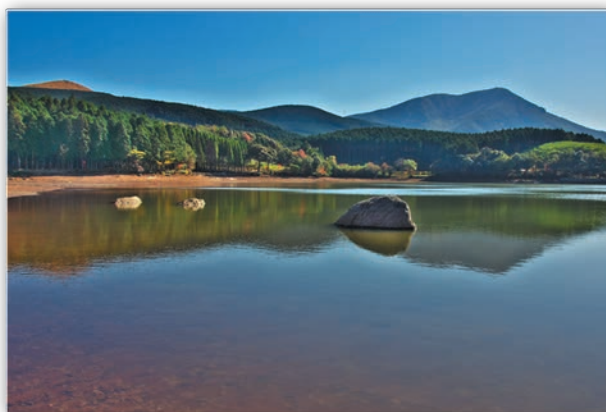


▲ 龍頭泉の滝

千綿溪龍頭泉には40数箇所もの滝と淵があり、呑空淵(どんくうぶち)や霧降りの滝も圧巻!

#### ▼ 蕪池(四ッ池のひとつ)周辺の風景

大野原演習場周辺には農業用溜池として大きな四ッ池が四季折々の自然美を楽しませてくれます。なかでも蕪池から望む山景色が最高です。



▲ 茶園風景

茶の安定生産のためのハード面の整備など良質茶産地としての基盤づくりに努めています。品評会では天皇賞、大臣賞など数々の産地賞を受賞しています。

#### ▶ 春の野焼き

大野原高原で新緑が芽吹く前の3月頃、地元住民や陸上自衛隊大村駐屯地の隊員さんが参加して、毎年行っています。



#### ◀ 道の駅彼杵の荘

町内特産品の流通、地域の活性化を目的とした交流施設には、連日多くの人が訪れ賑わっています。

## 2 自治体紹介



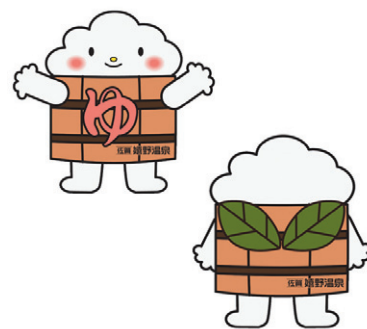
嬉野市長 谷口 太一郎  
(たにくち たいちろう)

### 佐賀県 嬉野市

「ひとにやさしい  
まちづくり」

〒849-1492  
佐賀県嬉野市塩田町大字馬場下甲1769番地

ホームページアドレス：<http://www.city.ureshino.lg.jp/>



嬉野温泉公式キャラクター「ゆっつら」くん  
嬉野温泉の湯気をモチーフにしたゆるキャラで  
背中にはかわいいお茶の葉の羽が生えています。

### 市長あいさつ

嬉野市は、佐賀県の西南部に位置しており、平成18年1月1日に嬉野町と塩田町が合併して県下9番目の市として誕生しました。

古くから九州屈指の名湯として知られる嬉野温泉は、「日本三大美肌の湯」として親しまれております。また、嬉野産大豆で作った豆腐と嬉野温泉水で作る嬉野温泉湯どうぶは、独特のまろやかな食感で、全国的に大変ご好評をいただいております。

塩田町地区には、塩田川の水運と長崎街道によって栄え、江戸後期に建設された町家が残る「塩田津」が伝統的建造物群保存地区に指定されるなど、数多くの歴史的資産が残っております。また、市内は緑豊かな山々に囲まれ、嬉野茶を生む風光明媚な茶畑と、のどかな田園風景、市の中央を流れる塩田川など豊かな自然環境にも恵まれ、癒しと安らぎを感じていただけるものと思います。

現在は九州新幹線西九州ルート of 工事も始まり、交通アクセスの向上が期待されます。日本だけでなく、東アジア圏をはじめとする海外からの観光客増加に向け、嬉野ブランドの確立と更なるPRに努めてまいります。



▲ 嬉野茶

全国でも有数の茶どころ、嬉野



▲ 公衆浴場「シーボルトの湯」

嬉野温泉公園の対岸に建つ、オレンジ色のとんがり屋根が目印の建物です。大正ロマンを感じさせるレトロな外観。館内は充実したバリアフリー設備や最新鋭のマッサージ機を備えており、どなたでもくつろいでいただくことができます。



▲ 志田焼の里博物館

大正時代の焼き物工場がそのまま保存されており、歴史的価値が高く評価されています。博物館として、焼き物作りの全工程が見学できるほか、ロクロや絵付けの体験ができます。

### ■ 地域住民との交流

嬉野市南部とお隣の長崎県東彼杵町にまたがる、大野原高原に陸上自衛隊大野原演習場があります。この演習場が所在する嬉野市大野原地区では、毎年9月1日にその年の豊作を祈願する「一ノ宮神社祭」が行われ、平成元年からは毎年、第16普通科連隊音楽部の方々による派遣演奏が実施されています。準備の段階から地元中学生も手伝いに参加し、祭りの終盤では、音楽部の生演奏に合わせてのカラオケも恒例となっており、地域住民の方々、また、市長も飛び入りで自慢ののどを披露するなど、歓声の中、隊員と子供を含めた地域住民の楽しい交流の場となっております。



▲ 一ノ宮神社祭

## 3 九州防衛局業務紹介

### 佐世保防衛事務所



〒857-0041

佐世保市木場田町2-19 佐世保合同庁舎6F

TEL (0956) - 23-3157

佐世保防衛事務所は、長崎県(対馬市及び壱岐市を除く。)を管轄区域とし、九州防衛局の出先機関として、米軍・自衛隊・地方自治体・関係団体及びその他の関係者との連絡、交渉、業務に関する調査及び資料の収集等並びに駐留軍等従業員の労務管理に関する事務を行っています。

当事務所は、昭和37年11月1日、旧防衛施設庁福岡防衛施設局の出先機関として「佐世保防衛施設事務所」という名称で佐世保市矢岳町の旧佐世保調達事務所庁舎に発足しました。その後、建物の老朽化等により昭和46年3月に佐世保市元町に移転し、平成14年5月からは現在の所在地である佐世保市木場田町の佐世保合同庁舎で業務を行っています。

平成19年9月、防衛省の組織改編に伴い、地方における防衛行政全般の拠点としての役割を担うことになり、「佐世保防衛施設事務所」から「佐世保防衛事務所」と名称を変更し現在に至っています。

## 4 インフォメーション

### 感謝状贈呈 ～在日米海軍佐世保基地司令官 ロック大佐～

7月8日、九州防衛局において、在日米海軍佐世保基地司令官ロック大佐に在任中の功績に謝意を表するため榎道九州防衛局長から感謝状を贈呈いたしました。

ロック大佐は、平成23年7月に佐世保基地司令官に着任以来佐世保地区所在の米軍施設に関連する諸問題の解決に尽力されました。特に、立神港区の3号岸壁から5号岸壁の一部返還の実施、西海市の横瀬 LCAC施設の運用開始に尽力され、また、日米交流事業にも積極的にご参加いただき、基地周辺住民の方々との交流をより一層深められました。



### 古川佐賀県知事等を表敬・訪問

7月22日、武田防衛副大臣は、古川佐賀県知事等を表敬・訪問し

- ①陸上自衛隊のティルト・ローター機の部隊を佐賀空港に配備させていただきたいこと
- ②併せて、市街化が進む目達原駐屯地に配備されているヘリコプターについても、佐賀空港に配備させていただきたいこと
- ③さらに、沖縄の負担軽減のために、米海兵隊に佐賀空港を利用させることも政府として視野に入れていること

を説明し、ご理解とご協力をお願いしました。

(本件の情報については、九州防衛局のホームページをご覧ください)

<http://www.mod.go.jp/rdb/kyushu/>



古川佐賀県知事(手前右側)に説明する武田防衛副大臣(中央)

第27回  
防衛問題  
セミナー

# 4 インフォメーション



~ Defense Of Kyushu ~  
**九州の防衛**

**入場  
無料**

写真:陸上自衛隊HPより

**2014年**  
**9月30日(火)**  
**開場18:00 開演18:30**  
**鹿児島市中央公民館**

(鹿児島市山下町5-9)



- ◆ 無料でご入場頂けます。事前申し込みの必要はありませんが、ご連絡頂ければ、お席をお取り置き致します。
- ◆ お座席(約480名)が限られておりますので、お早めにご来場ください。
- ◆ お車でご来場の場合は、会場付近の有料駐車場をご利用ください。
- ◆ 都合により講師が変更になる場合があります。
- ◆ 終演は20:30頃を予定しております。

### セミナープログラム

- 第1部テーマ:「新たな防衛計画の大綱」  
講師: 防衛省 防衛政策局 防衛政策課長 石川 武
- 第2部テーマ:「西部方面隊の役割」  
講師: 陸上自衛隊 西部方面總監部 行政副長 陸将補 河本 宏章



**主催 防衛省 九州防衛局**

**後援 陸上自衛隊 西部方面總監部  
自衛隊鹿児島地方協力本部**

### 【お問合せ先】

福岡市博多区博多駅東2丁目10番7号 福岡第二合同庁舎  
九州防衛局 企画部 地方調整課 地方協力確保室  
TEL:092-483-8816  
E-mail:seminar@kyushu.rdb.mod.go.jp

九州防衛局では不測の事態に対応するため、夜間・休日を問わず連絡体制を確保しております。

### 夜間及び休日の連絡先

電話:(092)483-8832 FAX:(092)472-1959

- ・平日は17時15分から翌朝8時30分まで、休日は終日。
- ・上記以外の時間帯は各課室直通電話へご連絡下さい。

<http://www.mod.go.jp/rdb/kyushu/>

ご意見・ご感想

TEL 092-483-8813

mail info@kyushu.rdb.mod.go.jp